

事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とする経済財政政策の推進の効果により、雇用・所得環境に改善がみられたものの、個人消費と民間設備投資は低迷し、新興国の経済成長鈍化に伴う不透明感から、また、年度の後半は株価下落や円高の進行などの影響により景気の回復に足踏みがみられました。

一方、県内経済は、東日本大震災津波からの復興への取組により、沿岸部を中心に公共投資や民間投資が高水準で推移しており、雇用・所得環境も改善し、緩やかな回復局面にありました。

当社においては、安全・安心な輸送の確保のため、老朽化した通信ケーブルの更新、トンネル・橋梁等の改修工事のほか、風速計増設及び風規制区間変更、社員の外部訓練会への派遣など障害事故の未然防止に取り組み、障害事故 0 件を継続しています。

また、「お座敷列車」、「こたつ列車」、「ランチ or スイーツ列車」などの企画列車の運行のほか、「花見かき列車」、「いわてさんりく恋列車」などの地域連携企画、企業ヘッドマーク及び車両ラッピング等の企業等との連携により利用者の増加に努めてきました。

さらには、関連事業において、引き続き震災学習列車の運行、被災地フロントライン研修等により、東日本大震災津波の被災地として災害学習への対応、震災の記憶風化防止に取り組みました。

しかし、平成 26 年 4 月の全線運行再開から 1 年が経過し、前年度の観光利用者増からの反動減、北陸新幹線開通による影響等から、観光需要が大きく落ち込み、鉄道事業においては、輸送人員で前年度比 87.3%の 602,856 人、鉄道事業収入で同 78.7%の 356,982 千円となりました。

関連事業においては、観光客利用が減少したことにより弁当、車内販売、駅売等の物販部門の売上が大きく減少したものの、旅行部門において、震災学習列車や修学旅行が前年度並みとなり、新規受託事業が増加したことから、前年度比 119.7%の 89,587 千円となりました。

また、経常費用は、原油価格の大幅な低下により、燃料費が大きく減少したほか、人件費、修繕費その他においても経費節減に努めたことから、前年度比 90.3%の 589,167 千円となりました。

その結果、経常利益は、▲135,967 千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は、5,958 千円と、前年度比 80,873 千円の減益、計画比 1,780 千円の増益となりました。

[損益の状況]

(単位：千円)

| 項目 | 27年度実績 | 26年度実績 | 前年度増減 | 前年度比 | 27年度計画 | 計画増減 | 計画比 |
|--------|----------|----------|---------|--------|----------|---------|--------|
| 鉄道事業収入 | 356,982 | 453,650 | ▲96,668 | 78.7% | 367,000 | ▲10,018 | 97.3% |
| 関連事業収入 | 89,587 | 74,844 | 14,743 | 119.7% | 77,000 | 12,587 | 116.3% |
| 営業外収益 | 6,632 | 21,537 | ▲14,905 | 30.8% | 3,000 | 3,632 | 221.1% |
| 経常費用 | 589,167 | 652,576 | ▲63,409 | 90.3% | 587,622 | 1,545 | 100.3% |
| 経常利益 | ▲135,967 | ▲102,545 | ▲33,422 | 132.6% | ▲140,620 | 4,653 | 96.7% |
| 当期純利益 | 5,958 | 86,831 | ▲80,873 | 6.9% | 4,178 | 1,780 | 142.6% |

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

平成 27 年度の輸送実績をみると、乗車人員では、定期外の乗車人員が前年度比 73.0%となったことが影響し、全体では前年度比 87.3%となる 602,856 人となりました。

また、運輸収入も一般個札及び観光団体で、前年度比がそれぞれ 75.7%、51.3%となったことが影響し、前年度比 78.4%となる 329,628 千円となりました。

[輸送実績]

(単位：人、千円※税抜)

| 項目 | 27 年度 | 26 年度 | 増減 | 前年度比 | 22 年度 |
|---------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 乗車人員 | 602,856 | 690,776 | ▲87,920 | 87.3% | 851,456 |
| 定期 | 275,327 | 241,861 | 33,466 | 113.8% | 469,980 |
| 定期外 | 327,529 | 448,915 | ▲121,386 | 73.0% | 381,476 |
| (北リアス線) | (448,611) | (513,270) | (▲64,659) | (87.4%) | (617,750) |
| (南リアス線) | (154,245) | (177,506) | (▲23,261) | (86.9%) | (233,706) |
| 運輸収入 | 329,628 | 420,652 | ▲91,024 | 78.4% | 322,534 |
| 定期券 | 58,520 | 53,568 | 4,952 | 109.2% | 92,698 |
| 一般個札 | 156,696 | 207,075 | ▲50,379 | 75.7% | 138,715 |
| 観光個札 | 25,364 | 20,521 | 4,843 | 123.6% | 25,741 |
| 地元団体 | 50,919 | 65,217 | ▲14,298 | 78.1% | 16,062 |
| 観光団体 | 38,129 | 74,271 | ▲36,142 | 51.3% | 49,318 |

② 運転状況

平成 27 年度の定期運行は、北リアス線では、宮古～久慈間を 1 日 22 本、普代～久慈間を 1 本、田野畑～久慈間を、祝日を除く平日に 1 日 2 本、それぞれ運行しました。

南リアス線では、盛～釜石間で 1 日 20 本を運行しました。

[運転状況]

| 駅間 | 宮古～久慈 | 普代～久慈 | 田野畑～久慈 | 盛～釜石 |
|------|-------|-------|--------|------|
| 列車本数 | 22 本 | 1 本 | 2 本* | 20 本 |

* 田野畑～久慈間は土休日運休

③ 企画列車及びイベント列車等

通常運行の列車に加え、当社主催の企画列車及び地元団体や企業等が企画するイベント列車を随時運行しています。

また、ヘッドマーク掲示や車両ラッピング等の実施のほか、ゲーム会社の位置連動ゲームなど様々な企業や団体等と連携した企画も積極的に実施しています。

[主な企画列車]

- ・お座敷車両「北三陸号」(北リアス線：4 月～11 月)
- ・北リアス線～JR 山田線直通「さんりく北リアス号」相互乗入 (夏季繁忙期)
- ・「こたつ列車」(北リアス線：12 月～3 月、3 月末さんりくしおかぜラストラン)

- ・大船渡つばきまつりのPR列車「つばきまつり号」（南リアス線：1月～3月）

[主なイベント列車等]

- ・「かいけつゾロリ列車」（北リアス線：夏休み期間）
- ・「ランチ or スイーツ列車」（南リアス線：ゴールデンウィーク及び夏休み期間）
- ・「花見カキ列車」、「ワカメ王子列車」、「いわてさんりく恋列車」、「遠野どべっこ列車」、「お絵かき列車」、「第3回キッズジオトレイン」、「歌声列車」等（1日～数日限り）、「アサヒスーパードライ号」、「くずまきワイン列車」、「POKEMON with YOU トレイン」、「早稲田大学ジャズトレイン」等

[その他企業等との連携]

- ・携帯ゲーム会社の位置連動ゲーム「いわて×駅メモ」
- ・企業ヘッドマーク及び車両ラッピング

(2) 関連事業営業概況

① 旅行業

旅行業においては、震災後に企画した着地団体旅行の震災学習列車が、平成27年度も引き続き好調で204団体が乗車したほか、完全オーダーメイドで被災地を視察するフロントライン研修は22団体が利用しました。また、地域の団体旅行や修学旅行、募集型団体旅行の販売等も行っています。

[主な団体旅行の実績]

| 種類 | 実績 |
|------|--|
| 着地団体 | 震災学習列車（204団体 10,389名）、被災地フロントライン研修（22団体 760名）、大型客船オプションツアー等を催行 |
| 一般団体 | 岩手県漁港漁村協会の「全国漁港漁村大会」参加ツアー、山田町民号、沿線市町村議会の先進地視察研修等を手配 |
| 教育団体 | 修学旅行（中学校4校、高校1校）、岩泉町中高生海外派遣事業、普代中学校神楽同好会仙台公演等を実施 |
| 募集团体 | 募集团体：三陸ジオパークモニターツアー、かいけつゾロリと謎のねこ、宮古信用金庫女性積立旅行、三鉄初詣号、恐山参拝団等を催行 |

② 物産企画

物産は、当社キャラクターの新商品開発のほか、他企業との連携によるオリジナルフレーム切手の開発、地域企業との連携による夏冬ギフトの販売を行うとともに、こうした開発商品等を外部イベント等においても販売を行いました。

[物産企画の実績]

- ・商品開発：日本郵便&トミーテックのコラボレーションによる「オリジナルフレーム切手」、スマートフォンケースなど「鉄道むすめ」・「鉄道ダンシ」シリーズの新商品開発
- ・ギフト等：地域企業との連携による夏ギフト及び冬ギフトの販売
- ・主な外部イベント：イオン三陸鉄道全線運行再開1周年記念イベント（釜石市）、東北鉄道フェスティバル（仙台市）、鉄道フェスタ inZホール（奥州市）、沿線市町村の産業まつり等における物産販売及びPR活動

(3) 安全安定輸送への取組

当社においては、障害事故0件を目標として安全基本方針に則り、安全・安心な運行の確保に努めており、平成27年度においても、老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次実施しました。

また、保安設備についても新增設が必要な箇所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

さらに、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

① 平成27年度安全対策事業

・鉄道軌道安全輸送設備等整備事業

田野畑～普代駅間通信ケーブル更新工事

北リアス線トンネル改修工事（石門トンネル外3か所）

北リアス線橋りょう改修工事（島ノ沢橋りょう外4か所）

・設備改修工事（軌道保守工事・電力整備点検業務・信号設備検修工事）

② 平成27年度保安対策事業

・風速計増設による風規制区間変更開始

・外部訓練会への参加（会津鉄道・東北鉄道協会等）

・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施

(4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、平成27年度においては、次のとおり支援を受けました。

| | |
|----------------|-----------|
| ・鉄道軌道安全輸送等整備事業 | 130,943千円 |
| ・運営費補助（設備維持補助） | 146,800千円 |

3 対処すべき課題

東日本大震災津波による被災以降、関係機関等の支援を受けて復旧工事に着手し、平成26年4月に南北リアス線が全線運行再開しました。併せて、同年12月には当社が所有する車両以外の鉄道事業用減価償却資産を沿線市町村に寄付し、鉄道事業に使用するため当社が無償で貸付を受けることで、保有資産の圧縮を図りながら、経営の合理化を進めています。

しかしながら、沿線の市町村における復興事業も未だ道半ばであることから、駅周辺に地域住民が戻ってくるまでには、まだ相当の時間を必要とするとともに、震災前から見られた少子高齢化の進展による沿線人口の減少や、モータリゼーションの浸透など、経営面においては、今後さらに厳しい状況が見込まれます。

今後は、平成28年秋の岩手国体や平成31年に釜石市において開催されるラグビーW杯への対応や、外国人観光客を含め交流人口の拡大を柱とした利用促進・販売促進の取組を強化し、持続的な路線維持に向けた運営に努めていく必要があります。

また、平成27年2月にJR山田線（宮古・釜石間）のJR東日本からの支援を前提にした、山田線の三陸鉄道による南北リアス線との一体運営に係る基本合意書及び覚書を、それに基づき、同年7月に鉄道復旧及び移管に関する協定をJR東日本(株)、岩手県及び沿線市町村と締結しました。

今後は、JR 山田線の復旧完了後の運営移管によって、大船渡市から久慈市までの鉄道路線として一体運営を行うこととなることから、「鉄道事業再構築実施計画」に基づき、「安全運行の創造」、「顧客価値の創造」、「共通価値の創造」を目標に、安全性・利便性の向上を図り、投資計画・経費構造の抜本的な見直しや、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を進め、沿線地域住民にとって必要不可欠な交通手段となるように取り組んでいく必要があります。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 130,943 千円であり、その内容は次のとおりです。

| | |
|--------------------------------|------------|
| ○ 鉄道軌道安全輸送等整備事業 | 130,943 千円 |
| ア 田野畑～普代駅間通信ケーブル更新 | 88,197 千円 |
| イ 北リアス線トンネル改修工事（石門トンネル外 3 か所） | 12,599 千円 |
| ウ 北リアス線橋りょう改修工事（島ノ沢橋りょう外 4 か所） | 30,147 千円 |

5 資金調達の状況

該当する事項はありません。

6 直前 3 事業年度の財産及び損益の状況

| 区 分 | 24 年度 (第 32 期) | 25 年度 (第 33 期) | 26 年度 (第 34 期) | 27 年度 (第 35 期) |
|------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 営業収益 | 306,732 千円 | 334,151 千円 | 528,494 千円 | 446,569 千円 |
| 当期純利益 | 22,739 千円 | ▲51,172 千円 | 86,831 千円 | 5,958 千円 |
| 1 株当り当期純利益 | 757 円 | ▲1,705 円 | 2,892 円 | 198 円 |
| 総資産合計 | 4,672,552 千円 | 2,398,122 千円 | 530,186 千円 | 511,679 千円 |

7 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第 1 種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第 2 種旅行業
- (3) 物品販売業

8 当該事業年度の末日における主要な事業所等

| | |
|-----|------------------|
| 本 社 | 宮古市栄町 4 番地 |
| 事業所 | ・ 事業本部 |
| | 宮古市栄町 4 番地 |
| | 宮古駅 |
| | 宮古市栄町 4 番地 |
| | 施設管理部 |
| | 久慈市川崎町 10 番 20 号 |
| | ・ 北リアス線運行部 |
| | 久慈市川崎町 10 番 20 号 |
| | ・ 南リアス線運行部 |
| | 大船渡市盛町馬場 4 番 4 号 |
| | 釜石駅 |
| | 釜石市鈴子町 22 番 5 号 |

※市町村等への業務委託駅：久慈駅・陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・島越駅・岩泉小本駅
釜石駅・三陸駅・綾里駅・盛駅（休業駅：田老駅）

9 従業員の状況

| 区 分 | 従 業 員 数 | 平 均 年 齢 | 平均勤続年数 |
|-----|---------|---------|--------|
| 男 子 | 64名 | 45.8才 | 23年3ヶ月 |
| 女 子 | 0名 | — | — |
| 計 | 64名 | 45.8才 | 23年3ヶ月 |

(注) このほか臨時雇用従業員 14 名、パート従業員 2 名、(独)鉄道運輸施設整備機構から出向 1 名、いわて復興応援隊から 1 名を受入れています。

10 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の 75.3% (22,600 株) の出資を受けています。

※ 岩手県 48% (14,400 株)、沿線市町村 19.3% (5,800 株)、沿線外市町村 8% (2,400 株)
岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000 株
- 2 発行済株式の総数 30,000 株
- 3 当事業年度末の株主 46 名

4 主な株主の状況

| 株 主 名 | 持 株 数 | 持 株 比 率 |
|---------------|----------|---------|
| 岩 手 県 | 14,400 株 | 48.0% |
| 宮 古 市 | 1,350 株 | 4.5% |
| (株) 岩 手 銀 行 | 1,200 株 | 4.0% |
| 大 船 渡 市 | 1,150 株 | 3.8% |
| 新 日 鐵 住 金 (株) | 1,000 株 | 3.3% |
| 東 北 電 力 (株) | 1,000 株 | 3.3% |
| 一 関 市 | 700 株 | 2.3% |
| 久 慈 市 | 650 株 | 2.2% |
| 釜 石 市 | 650 株 | 2.2% |

Ⅲ 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

| 会社における地位 | 氏名 | 他の法人等の代表状況等 |
|----------|------|---------------------|
| 取締役会長 | 達増拓也 | 岩手県知事 |
| 取締役副会長 | 山本正徳 | 宮古市長 |
| 取締役副会長 | 戸田公明 | 大船渡市長 |
| 取締役副会長 | 遠藤譲一 | 久慈市長 |
| 取締役副会長 | 野田武則 | 釜石市長 |
| 代表取締役社長 | 望月正彦 | |
| 取締役 | 伊達勝身 | 岩泉町長 |
| 取締役 | 石原弘 | 田野畑村長 |
| 取締役 | 梶屋伸夫 | 普代村長 |
| 取締役 | 小田祐士 | 野田村長 |
| 取締役 | 柳田英輝 | 岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長 |
| 取締役 | 大井誠治 | 岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長 |
| 取締役 | 坂下政幸 | 事業本部長 |
| 監査役 | 田口幸雄 | (株)岩手銀行 代表取締役頭取 |
| 監査役 | 石塚恭路 | (株)北日本銀行 代表取締役専務 |

2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,320 千円

監査役の報酬はありません。

Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。